

開催後記

平成 25 年度 関東甲信越診療放射線技師学会
神奈川県放射線管理士部会企画
「医療被ばく相談～放射線診療を安心して受けて頂くために～」
茨城県厚生連総合病院土浦協同病院 長谷川 健

2013 年 6 月 29 日（土）に平成 25 年度 関東甲信越診療放射線技師学会の神奈川県放射線管理士部会企画「医療被ばく相談～放射線診療を安心して受けて頂くために～」が開催され、日本診療放射線技師会（以下 JART）の被ばく相談員として参加させていただきました。

プログラムの前半は聖マリアンナ医科大学付属病院の佐藤寛之氏より「放射線検査において患者が求めているものとは・・・」、甲府共立病院の佐藤洋一氏より「被ばく相談に必要な基礎知識」の講義が行われました。被ばく相談を行う上で、最低限必要な知識や被ばく説明用のツールの紹介などもあり、相談のポイントを押さえた分かりやすい講義で、熱心に聴講している参加者の様子が印象に残りました。

プログラムの後半は医療被ばく相談についてのグループワークです。参加者 39 名を 5 グループに分け、各グループそれぞれに医療被ばくに関して代表的な質問事例が提示されました。グループごとに質問者の背景や意図していること、実際には何が聞きたいのかなど質問分析を行い、それについてどのように回答すればよいか討論を行いました。

各グループにアドバイザーとして JART の被ばく相談員が配置され、司会や書記、討論内容の発表を行いました。私が担当したのは「今回の怪我で CT やレントゲンをたくさん撮りました。今後僕が、結婚して子供を作るときに何か問題になったりしませんか？～交通外傷による大腿骨骨折の 22 歳男性～」という事例です。質問分析としては、①撮影回数が多く、本当に必要な検査だったのか疑問視しているのではないか？という意見や、②放射線を浴びると形態異常の子供が産まれる、不妊になる、がんになる、などと不安に感じているのでは？といった意見が出されました。

20 分という限られた時間でしたが、私が担当したグループを含め、ほとんどのグループで時間が足りないほど、活発な討論を行っている様子でした。あらかじめ神奈川県管理士部会の皆様が医療被ばく説明用の資料を用意して下さったおかげで、実りのある討論になったのではないかと思います。私自身は勉強不足と経験不足は否めませんでしたが、同じグループになった方々に助けられ、なんとか役割を全うすることができました。

今回の企画を通し、患者に安心して放射線診療を受けていただくには、質問に対して、ただ「大丈夫ですよ」と回答するのではなく、患者に納得してもらえるよう説明するために、自分たちに必要な知識が何か、再認識する大変よい機会だったと思います。

最後になりましたが、未熟な私がこのような企画に参加させていただき、なんとか役割を果たせたこと、これもひとえに参加者の方々と神奈川県放射線管理士部会の皆様のご協力のおかげです。深く感謝申し上げます。今回の経験を生かし、今後も被ばく相談員としてだけでなく、診療放射線技師としても日々精進していきたいと思っております。



グループワークの様子